

鹿島にかつての魅力を取り戻す

(2) 鹿島

① 概況



鹿島は、北条港の西方 400m に浮かぶ周囲 1.5 km、標高 114m の小島で、中世の頃、河野氏の海城の役目を果たしていました。別名「伊予の江の島」とも呼ばれ、昭和 31 年 5 月に国立公園となりました。

山頂には展望台や神功皇后伝説の「御野立の巖」があり、展望台からは「千霧」や「小鹿島」、また、大しめ縄張り替えが行われる「玉理・寒戸島」が望めます。島全体には松・楠など温暖性常緑照葉樹が繁り、約 260 種類の植物が生息しています。島内には句碑や河野氏ゆかりの鹿島神社などもあり、歴史文化にふれることができるほか、周遊船で「水晶ヶ浜」や「石門」などの風景を楽しむことができます。



② 昭和の頃

昭和時代の鹿島は2つの顔を持ち合わせていました。

1つは、「癒し」の顔を持っていた昭和20年代までの鹿島です。白砂青松の残る島は、多くの俳人が風流を楽しんだり、夏に人々は清涼を求め舟遊びに出かけたりするなど、自然をうまく活用し心の癒しの場所となっていました。

もう1つは、昭和30年代以降の「観光」の顔を持つ鹿島です。北条市は観光地として売り出し、博物展示館や国民宿舎の建設、またレジャーブームに後押しされ、かつては年間15万人もの来島者でにぎわっていました。



③ 現状と課題

近年のレジャーの多様化や余暇の過ごし方の変化などにより、現在の来島者数は年間3万人程度にまで落ち込んでいます。また、長年の風雨や台風による塩害などから島全体の土壌風化が進んでいるほか、野生鹿による樹木への食害で森林が荒れるなど、様々な要因により魅力が低下しています。

④ 活性化に向けた方針

現状と課題を整理すると、景観環境の悪化や建築物の老朽化など、鹿島が持つ本来の価値が低下していることがわかります。

将来像、あるべき姿は、今ある資源を最大限に活用し、人が集まり、人が癒される島となることです。こうした考察をもとに鹿島は、活性化に向け『かつての魅力を取り戻す』を方針とします。

⑤ スローガン

『かつての魅力を取り戻す』方針を共有するため、スローガンを掲げます。

Re 鹿島

かつての鹿島には多くの自然があった。

多くの人が集まり、にぎわいがあった。

地域の誇る風光明媚な宝。

そんな鹿島をもう一度再生したい。

かつての鹿島を再び。

それが、Re 鹿島。

◎ まちづくりものがたり

スローガンを達成した将来イメージを『まちづくりものがたり』として記します。

地域と行政が
一体となって、
自然を守り
人が集う場所として
取り組みを進めたことで、
交流の場と癒しの場の
2つの顔をもつ島として
再生した鹿島。

にぎわいと
静けさが調和し、
誰からも愛され
何度でも行きたくなる
場所となっている。

自然を活かした
学習会やアウトドアを通じ
交流を深める人や、
日々の喧噪を忘れ
ゆったりのんびり過ごす人で、
地域内外から
多くの人
が集まっている。



⑦ 取り組みアイデア

まちづくりものがたりを達成するために必要な取り組みを掲げます。

資源活用

河野氏にまつわる旧跡や玉理・寒戸島（伊予の二見）など鹿島に残る多くの資源を見つめ直し、活用することで魅力化を図ります。昭和を切り口とした資源活用の検討も進めます。

取組 01 自然を活かした魅力づくり

山や海、生態系などの自然を体験・学習できるプログラムを充実し、自然を活かした魅力をつくります。

主な内容：自然体験学習会の開催/ビューポイントの創出

取組 02 歴史文化を活かした魅力づくり

河野氏に関連した史跡を体験・学習できるプログラムを充実し、歴史文化を活かした魅力をつくります。

主な内容：文化財めぐりの開発/地元学の開催

取組 03 北条鹿島博物展示館の活用

北条鹿島博物展示館の活用を検討し、新たな魅力をつくります。

主な内容：自然体験型企画展示/
河野氏にまつわる企画展示



取組 04 昭和をキーワードとする活性化

昭和時代に癒しの場所であった鹿島の「癒し」を体感できる魅力をつくります。

主な内容：藤・桜の植樹/鹿島音頭・鹿島小唄の普及

環境整備

島全体の景観整備に努めるとともに、良好な森林環境の維持に向けた鹿対策や条件整備を図ることで、鹿島の価値を高めます。

取組 05 美しい景観づくり

野生鹿などの生態系調査や森林の維持管理などを行い、景観環境の保全を図ります。

主な内容：野生鹿対策/森林維持・管理



取組 06 魅力を高める施設整備

既存施設の改修や鹿島の景観に配慮した新たな施設整備を進め、魅力を高めます。

主な内容：北条鹿島博物展示館の整備/鹿島渡船建造

情報発信

興味・共感につながる効果的な情報発信を行うなど、戦略的なプロモーション^(※1)によって鹿島の魅力を伝えます。

取組 07 多様な媒体を活用した魅力発信

テレビ、雑誌、ラジオなどの各種媒体を始め、ホームページやソーシャル・ネットワーキング・サービス^(※2)なども活用し、魅力を発信します。

主な内容：各種パンフレットの作成/イメージ映像の制作

交流促進

地域が一体となり、鹿島ならではの魅力あるイベントを打ち出し集客を図ります。訪れる人との交流機会を設けることで、地域の活力を育みます。

取組 08 島を舞台としたイベント

多くの人を訪れるきっかけづくりとなるイベントを開催し、にぎわいをつくります。

主な内容：^{かざはや}風早レトロまつり/地域主催のイベント

取組 09 集いの場づくり

多くの人が集まる場づくりを進め、交流の機会を創出します。

主な内容：キャンプ・遠足の誘致/大しめ縄張り替えを活かした誘客

協働推進

地域住民や各種団体などが連携し、それぞれの強みや役割を活かすことで継続する取り組みを行っていきます。協働に向けた人材発掘・育成にも取り組みます。

取組 10 地域主体の組織づくり

新たな魅力や価値を生み出すため、まちづくり協議会^(※3)、NPO^(※4)、大学など様々な団体が連携した組織体制を整えます。

主な内容：地域協働組織の推進

※1 プロモーション：宣伝活動全般のこと

※2 ソーシャル・ネットワーキング・サービス：インターネットを通じて人と人のつながりを促進し、コミュニティの形成を支援するサービス

※3 まちづくり協議会：地域におけるまちづくりを総合的かつ主体的に担う団体で、その地域の住民や住んでいる土地のつながりに基づいてつくられた団体などで構成され、自律的な運営が行われているもの

※4 NPO：非営利団体（NonProfit Organizationの略）。様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し収益を分配することを目的としない団体の総称